

指導要録と通信票における道徳科の評価の違い



指導要録と通信票の評価の違いは何ですか？

評価の基本的な考え方は共通ですが、記述の仕方が異なる場合があります。



■ 評価の記述の違い

指導要録は、個々の教材、内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を記述します。

通信票は、難しい表現は極力避けて、児童生徒の学習状況や成長の様子が保護者に伝わるよう、分かりやすく記述します。教材名、内容項目、道徳的価値を記述してもよいかどうかは学校の判断とし、これらを記述する場合も、具体的な学習状況や成長の様子についての記述があるとよいです。

指導要録の記述例

（「多面的・多角的な見方」についての評価）

立場を変えて考えると、相手の気持ちがよく分かることに気付くなど、多様な視点から考え、今後の生き方についての考えに生かすことができました。

いじめの内容が扱われた学習を通して、いじめをしたら、加害者、被害者、傍観者がみんな嫌な気持ちになるということに気付きました。

（「自分との関わり」についての評価）

自分が主人公と同じ立場だったら、という目線で物事を考えていた。授業で考えたこと、学んだことを、これからの生活の中に生かそうとしている。

教材の主人公の立場に、自分を重ね合わせて考えています。思いやりについて考える学習では、相手の気持ちを察して行動することの大切さに気付きました。

（「自分との関わり」についての評価）

役割演技では、登場人物になりきって、素直な心を表出するなど、自分との関わりで学びを深める姿が多く見られる。

父母の立場になって役割を演じる授業では、家族が自分を支えてくれる愛情の深さに気付き、自分の果たすべき役割の自覚と、家族への感謝の気持ちが高まりました。

■ 評価の記述のNG例

「～を通して、道徳的判断力が高まった」・・・道徳性が育ったかどうかは評価しない。

「授業で学んだことを生かし、学校のきまりを守って」・・・道徳科の授業以外の学習状況を評価しない。

「役割演技を学級で一番一生懸命に取り組みます」・・・他の児童生徒と比較しない。

参考文献

- | | | | |
|-----|--------------------------------------|----------|---------|
| [1] | 鈴木明雄：主体的・対話的で深い学びを実現する
中学校「道徳科」授業 | p52 - 65 | 教育開発研究所 |
| [2] | 毛内嘉威：道徳授業のPDCA 指導と評価の一体化で授業を変える！ | p122-143 | 明治図書 |
| [3] | 服部敬一：「特別の教科 道徳」の授業と評価実践ガイド | p104-109 | 明治図書 |